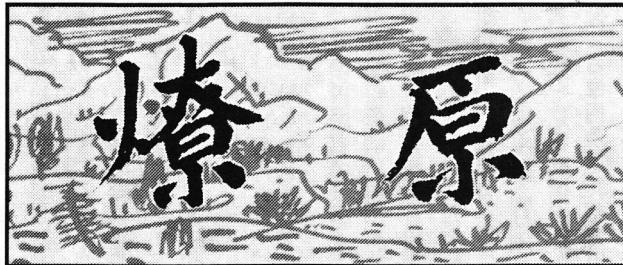


2009年7月15日  
第183号

題字 住谷悦治



燎原社  
(京都の民主運動史を語る会)  
代表 岩井忠熊  
事務局  
京都市左京区高野東開町1-23  
第三住宅33-302 井手幸喜  
〒606-8107  
tel & fax 075 (722) 3823

「うたごえ」よ高らかに（京都の「うたごえ運動」の歩みから（4）  
京都府職組の建設期と府職労安保闘争弾圧事件（中）  
〔資料〕戦後京都における政黨の変遷  
京阪電鉄レッド・ページの真相  
（連載）忘れ得ぬ人浜田陽子・引野収さん  
書かれていた恐ろしさ 大切さ そして空しさ

BOOK／情報スクランプ／編集後記

7

総会報告／例会案内

12

この一枚

第8回日本母親大会

1962年8月



立命館大学広小路学舎（現在は府立医科大学）の正面入口

初の地方開催、立命館大学で

今年7月25、26日に京都で第55回日本母親大会が開かれます。少し歴史を振り返ってみると――。

1962年8月19日に立命館大学（広小路学舎）を分科会会場に1万8千人が参加したのが、東京以外での開催の最初でした。当時はまだ府立体育馆がなく、翌日の全体会は大阪で行われました。

「分科会はどの部屋も満員、ござの上に座りこむ人も出て……それでも入りきれなかつた参加者は、御所の芝生に輪になって自主的な青空分科会を開いた」「臨時保育所も600人という記録的な人数の幼児をあずかり、移動トイレまで出動してもらうありさま」（『母親運動30年史』）から

翌日の大阪での全体会も2万人が参加したため午前と午後の2部制、御堂筋を長い隊列で行進しました。記念講演は末川博立命館総長でした。

次の京都開催は1973年の第19回大会でした。分科会は京都大、立命大、府立大と高校3校、婦人センターなど285教室で。全体会は府立体育館で2部制で行なわれ、鷺川知事のあいさつ、細野武男立命館総長が記念講演しています。今年で京都開催は五回目です。

執筆者紹介

志摩 肇（しま・はじめ） 行政書士、中京民商常任理事、京都ひまわり合唱団団友。中京区在住。  
伊藤 晃（いとう・あきら） 自治体問題研究者、自然資源研究者。元京都府職員労組執行委員。左京区在住。  
松村 茂（まつむら・しげる） 故人。元京都民報社社長。  
小田切明徳（おたぎり・あきのり） 本会世話人。山宣性教育研究室長。伏見区在住。

小田切明徳（おたぎり・あきのり） 本会世話人。山宣性教育研究室長。伏見区在住。



け回るのを見ると、平和の尊さが身に沁みる」と語っていた。

第一回うたごえ祭典に参加

♪ 「晴れ晴れとした秋空に

平和の鳩が 飛んでいる  
美しい祖国の 祖国山河に  
まばゆい光が

そそいでいる。」

一九五三年一一月二九・三〇日、  
東京日比谷公会堂と共立講堂で若々  
しい力強い「うたごえ」が響いてい  
た。

東京・中央合唱団を中心にこの年から始まつた第一回「日本のうたごえ祭典」には、京都から私も含むひまわり・府序・紫明の各合唱団代表一〇名が参加、全国の仲間と共にこの曲をステージで歌つた。この曲のタイトルは「祖国の山河

に」で、専売の女性・紺谷邦子さん  
が作詩、作曲は新進の芥川也寸志氏。  
「うたごえ運動」の中で働く者の歌  
づくりが始まる中での作品。

終戦後、悪法治安維持法が廢止され、GHQの指示で労働組合や無産政党の活動が再開、新憲法下で平和と民主主義の運動は大きく前進した。



京都ひまわり合唱団第1回定期演奏会（1960年）のパンフレットより。田山音楽堂で、指揮は筆者。

60年前、四人で  
「青共京都合唱団」

京都でも私を含む四名の青年男女で、一九四九年八月「青年共産同盟京都合唱団」（以後名称変更を重ね現在は

京都ひまわり合唱団) を結成し運動を開始した。

主として日本民主青年同盟（青年共産同盟の名称変更・略称民青）京都府委員会の指示で、各種集会への出演・職場や地域への普及活動等を経

て、第一回寄稿の通り一九五〇年円山音楽堂でのメリデル

前夜祭には、六〇名の合唱団員で「世界をつなげ花の輪に」の歌を高らかに轟かせたのである。

また他の一方で、宝塚歌劇団元指揮者須藤五郎参議院議

徒唱で結成された勤労者音楽協  
（略称労音）により、健康で明  
働くものの音楽運動も始まり、  
単に聞くだけでなく職場音楽サ

ル援助にも発展、京都では音楽  
クル協議会結成から勤労者音楽  
始まり、更に各サークルの交流

の、フォークダンスと結びつく「おどり」集会が、当時土・日になると大流行していた。

## 「祖国の山河に」を報告演奏

帰洛後に開催の「歌とおどり」集

会では、祭典報告と併せ「祖国の山河に」も報告演奏したが、曲が難しい上に最高音が五線を上にはみ出すA音（八八〇ヘルツ）という、合唱経験者でも初心者では少し困難な音域を、代表団中の紫明合唱団員金山常明君が軽々と響かせたことが今も耳に残っている。（以下次号）

\* \* \* \* \*

上記「日本のうたごえ祭典」参加

は中央からの呼びかけに応じ行われたもので、ひまわりと府庁のメンバーリーは関西のうたごえステージにも立ち、新中國の「祖国大合唱」演奏にも参加した（しかし正直練習不足でろくに歌えなかつた）。

祭典では全国各地・産業別の演奏交流に加え、郷土民謡と舞踊、管弦樂による（旧）ソ連歌曲演奏、中央合唱団による平和組曲「日本のうた」が演奏され、「祖國の山河に」はその最終曲として、全国の仲間と共に京都代表もステージに立ち歌つた。

「祖國の山河に」を報告演奏

帰洛後に開催の「歌とおどり」集会では、祭典報告と併せ「祖國の山河に」も報告演奏したが、曲が難しい上に最高音が五線を上にはみ出するA音（八八〇ヘルツ）という、合唱経験者でも初心者では少し困難な音域を、代表団中の紫明合唱団員金山常明君が軽々と響かせたことが今も耳に残っている。（以下次号）

\* \* \*

志摩肇氏の「うたごえよ高らかに」は「燎原」97年11月号（1115号）、3号、98年3月号（1115号）、98年7月号（1117号）に掲載されています。

# 京都府職組の建設期と

## 府職労安保闘争弾圧事件

——自分史と重ねて振り返る

中

伊藤 晃

元京都府職員労働組合執行委員  
自治体問題研究者

### 知事選ボスター貼りで逮捕

1954年4月の知事選挙において「汚職・腐敗と闘う嵯川知事」の

ボスターを伏見地域で貼る活動に府

庁細胞から4人が参加した。私の妻

も同行していたが、張りこんでいた

警察官に緊急逮捕された。他の二人

は逃れたが私と妻（後、離婚）は逮

捕、深草の交番に連行された。その

とき妻は非党员であったが、女兒を

抱えて活動に参加していた。二人とも

黙秘で取り調べを拒否していた。

私は便所に行き、持つていた通勤定期券を秘かに口の中に飲み込んだが

印刷のにおいと苦さに吐きだしそうになつた。警官が「何をしているのか？」と詰問したが定期券はすでに胃袋に入っていた。もう私の身分は彼らには知られることが出来た。

間もなく、パトカーがきて伏見署に連行された。しかし、妻は三歳の子供の粉ミルクを要求したため困

果てた警察は彼女を釈放した。結局、

私がだけが警察に留置されることになつた。後で知つたことだが彼女は一人で京阪の深草駅で朝まで過ごし駅員から親切なもてなしをして頂いた。

私は伏見署で刑事たちから拷問に近い激しい尋問攻めにあつた。その頃、能勢克男弁護士の「法律における抵抗」という書物を読んでいて警察の不当逮捕に「黙秘権」行使することを知つていて一貫して住

所、氏名、職業などについて黙秘を続けた。二時間ほどして私が何か所持していないか私の身体を探り始めた。あまりにも酷い行為であつたので私は「何をするのか！馬鹿野郎！」

と怒鳴つてしまつた。その途端、「留置場に放り込んでおけ！」と大声で怒鳴りつけ、私を三人で団んで地下

の留置場の中に投げ出された。

深夜の留置場はポツンと薄暗い小さな電灯が寒々と光っていた。その

後、何回か取り調べ室に呼び出され

た。しかし、もう何もいうことはないで黙秘を続けた。こうして一夜

が明けたが厳しい取調べと黙秘との

戻るという状態が続いた。検事の取調べもあつたがここでも黙秘を貫いた。どうも彼らは私を當時、地下活

動をしていた有力な指導的学生と勘違ひしていたようだつた。間もなく両日が過ぎた。その間、外部から差し入れがあつた。そうだが私には何一つ届かなかつた。

ちょうど知事選と同時に伏見区の府会議員の補欠選挙があり、日本共産党から畠田豊次氏が立候補していました。私は留置場から「おーい、頑張れ！」と聞こえながら大声を上げて叫んでいた。二日ほどして手錠をかけられてジープで京都拘置所に連行された。拘置所に入る前に裸にされ、

いきなり肛門に棒のようなものを突っ込まれた。寄生虫の検査のようであつた。その後、長い数十もある拘置所の二階の一室に放り込まれた。

壁には「峰山殺人は俺だ！」などの落書きがあつた。コンクリートの壁にどうして書いたのか全く理解できなかつた。

壁には「峰山殺人は俺だ！」などの落書きがあつた。コンクリートの壁にどうして書いたのか全く理解できなかつた。

そこは手桶の便器と一枚の薄い蒲団があるだけの殺風景な独房であつた。

田駒吉氏が選挙妨害罪で逮捕された

三週間後に保険課長から「訓戒処分」の辞令が自宅に届いた。その後、裁判所によれば、起訴状の朗読と懲役一年、執行猶予三年の求刑があり、それに対しての小林為太郎弁護士の

反論の機会もなく裁判は終わつた。この選挙戦で府労働経済研究所の津田駒吉氏が選挙妨害罪で逮捕された

た。私たちの党活動は非公然であつたが、「51年綱領」を新綱領として活発に続けられていつた。私たちの組織指導に畠田氏があつた。

その当時の機関紙は非公然の「平和と独立のために」という手刷りのものでS氏がその作業を担当していました。また、当時の会議場所は、府税

た。独房から裸で長い廊下を通つて風呂場に行き、二、三分間警備員の笛の合図で体を洗い、石鹼も見知らぬ人から借りて入浴を済ませ、また、

裸で寒い廊下をあがり自分の独房に戻る

調べもあつたがここでも黙秘を貫いた。どうも彼らは私を當時、地下活動をしていた有力な指導的学生と勘

違ひしていたようだつた。間もなく両日が過ぎた。その間、外部から差し入れがあつた。そうだが私には何一つ届かなかつた。

対じが続くだけで事態は進展せず、

違いしていったようだつた。間もなく両日が過ぎた。その間、外部から差し入れがあつた。そうだが私には何一つ届かなかつた。

事務所の党員が旅館やお寺の部屋を借りてくれた。会議も常に脱出口を事前に用意して、踏み込まれたときに直ちに逃げられる準備をしていた。会議のための文書も非常に薄い用紙ですぐに飲み込めるものであった。それは府委員会のY氏が作成していた。

### 社会保障推進協議会の一員に

私が社会保障問題に関心を持つたのは1950年2月に発行された岸本英太郎教授の「社会政策論序説」を読んでからであつた。戦前から同氏をはじめ風早八十二氏、大河内一男氏、服部英太郎氏、近藤文一氏、森耕二郎氏、西村豁通氏らがいた。これらの論者の論争点は社会政策の本質をめぐって、西村氏が「資本と労働者階級との階級性の隠蔽策である」また岸本氏は「資本による労働力の価値収奪に対する資本の負担による抑制緩和策である」とした。これらの論争は不毛におわり、まだにその解明はされていない。私は西村氏の「階級隠蔽策」に賛成し卒論を仕上げた。いまでも、その論旨にはかわりはない。しかし、岸本説の価値論からの論点はもうすこし研究を進めたいと考えている。

さて、こうした経過もあり、京都社会保障推進協議会の一員として活動をすることとなり、多くの方から指導を頂いた。そのなかで忘れら

れないのは京都民医連の創設者の一人であつた高橋松藏先生であつた。当時、紫野診療所で医療活動をされていて、

ある日、先生の自宅に呼ばれ、社会政策論、医療論などを議論したことが懐かしい思い出として残っている。先生は結

核の特効薬を開発して「これで、もう医者をしなくても生きできる」と話されていた。

また、府立医大をレッド・パージされた野中弥一先生にもいろいろとお教え頂いた。

一方、私が党北地区委員の時、当時、堀川病院の院長であつた早川一光氏の「反党活動」をめぐって「辞職勧告」を突きつけにいつたことも今では行き過ぎだつたと思つてゐる。

また、府職の本庁支部長を勤められた橘了法氏（盛林寺住職）が開放した盛林診療所が京都民医連の院所として活動し始めた。私はここに事務所を置き、生活相談活動などを行なうな進歩的医師たちと共に職場大会を組織し、保険医の運動に呼応して組合員と共に闘を呼びかけた。その時、小川所長が私を所長室に呼び出され、「社会保険に勤めている者が反対することは問題だ！」と叱責された。そこで、私は当時、厚生省保険局から出版された「七人委員会の報告」を取り上げ組合機関紙「保険証」に小論を書いた。これを契機に組合として社会保険制度の研修会を保険課長に要求し、実現できた。その席上、

私は社会保険労働者としてこのよ

うな進歩的医師たちと共に職場で闘うことを考えた。そして、社会保険の診療点数の改悪反対闘争では、下京社会保険事務所へ保険医協会、

### 安保改定反対闘争と 府職労への大弾圧

民主勢力の統一した力によつて警職法を廢案にさせた力を發展させ、

に思い出深い記録となつた。

### 府職労の職場闘争と 勤務評定反対闘争など

府職労では、臨職の正職員化闘争、赤字財政再建下の賃金・要求闘争、「退職勧奨」反対闘争などが精力的に闘われた。

1958年には、教員の勤務評定



勾置理由開示公判で法廷に入る伊藤晃氏（1959年10月17日）

反対闘争、警職法反対闘争が大規模に実力行使によつて闘われた。社会保険事務所でも当局側からの中止命令も無視し、整然と庁内いっぱい集まつた組合員が警職法反対の声を高らかに叫んだ。

勤務評定反対闘争は日教組を中心にして組合員と共に闘を呼びかけた。その時、小川所長が私を所長室に呼び出され、「社会保険に勤めている者が反対することは問題だ！」と叱責された。そこで、私は当時、厚生省保険局から出版された「七人委員会の報告」を取り上げ組合機関紙「保険証」に小論を書いた。これを契機に組合として社会保険制度の研修会を保険課長に要求し、実現できた。その席上、本と労働者の階級緩和政策であることを強く主張した。私にとつて非常

59年3月に「安保条約改定阻止国民会議」が結成された。京都では、5月に「平和と民主主義を守る京都共闘会議（平民共闘）」が結成された。こうした情勢のもと京都の「平民共闘」は、全国統一行動にあわせて、府下各地で署名、集会、デモなどさまざまな活動を連日にわたって続行していく。府職労は第一次全国統一行動の59年4月には、時間内の安保時局講演会を開いた。

59年10月7～8日の府職労定期大会では、「安保改定反対闘争に全力をあげる」ことを決定した。

その直後の10月11日の日曜日、京都府警は、府職労大槻高委員長ら12人を不當にも逮捕した。その容疑は、「強要、公務執行妨害、建造物侵入・同損壊」であった。

逮捕されたのは、大槻高・大江洸・神谷信之助・伊藤晃・竹沢秀・早崎源二郎（以上、本部執行部）と保険支部の井内和男・野田昌生・山田二朗・湯浅俊彦・塙見秀夫・市川久雄であった。全員が黙秘で闘つた。

この安保弾圧事件は、59年4月15日の安保反対第一次全国統一行動の際の時局講演会出席をめぐる紛争によるものであつた。勾留理由開示公判は三日後に開かれたが、裁判長が我々を「被告」と呼んだため裁判所内は騒然とし、柴田茲行弁護士や被告団が猛然と反論し、裁判長が「被疑者」と呼び改めたが夜遅くまで抗

議が続いた。食事も裁判所内で済ませるという異例の事態となつた。この勾留開示裁判はのちに最高裁で「荒れる法廷」として問題になつた。

これに先立つて「懲戒免職」の辞令が下鴨警察の留置場で小野寺府保険課長ら三人によって私に渡された。その時、弁護士とも「接見禁止」とされ、外部と遮断されていたので彼らが勾留中の私に直接に来たことで、事件が厚生省と警察との共謀であったことがわかつた。

当時の新聞で「警官2百人が出動、16箇所を急襲」「組合幹部ら12人逮捕」「伊藤前支部長を懲戒免職」などの記事が3段～5段抜きで物々しく報道されていた。

この事件について幾つかの私なりの教訓をしたためておきたい。

第一は、運動の一局面のみを分析していた。職場の民主的高揚だけ見えて、事実とは違うものの「組合の職場管理」に近い状態であった。この「職場管理」闘争は1950年代の2・1ストの前後に採用された誤った戦術であつた。本省の直轄的下部機構という官僚的中央主義の濃厚な組織であるだけ中央当局者・警察機関はこれを見逃すことはなかつた。

京都の保険当局―府職労へという最も凶暴な国家権力体系によつて順次に、準備・組み立てられていつたのであつた。我々の認識はこうした情勢を的確に把握していなかつた。職場における運動の高まりにだけしか視点が注がれていた。周到に準備されていた当局が乱発する権力の前には我々の府職労の力量は「蠟螂の斧」に似たものであつた。当時の全体的な政治的・階級的な力関係を科学的に見通せず、労働組合主義に陥っていた。ここに、刑事事件としてフレーム・アップされる弱点を持つていた。

第二の問題はこのような運動の戦術上で大きな弱点をつくり上げることとなる。当時の闘争経過を振り返ると、「当局が約束を破り、合理性がない。だから絶対に妥協しない。これが組合員を守り、労働組合の原則だ」という風潮を作り出した。ここでは、妥協が重要な役割を果たさない。だから絶対に妥協しない。

（以下次号）

た。戦前・戦中は内務省＝府県警察部が管轄しており、その人脈は戦後も続いていた。

### 公判闘争を通じて学んだこと

私は50年前の公判闘争を通じて多くのことを学ぶことができた。厚生省—最高検—京都地検—京都府警—京都の保険当局—府職労へという最も凶暴な国家権力体系によつて順次に、準備・組み立てられていつたのを一切否定するのは、児戯に類しだろうか？ レーニンもまた著名な「共産主義内の左翼主義小児病」という論文で、「妥協一般を許すことは、我々の認識はこうした情勢を的確に把握していなかつた。職場における運動の高まりにだけしか視点が注がれていた。周到に準備されたいたところであり、まじめに取り上げることも出来ない」と述べ、不利な戦闘を避けるために、「迂回し、協調し、妥協する術を知らないような革命的階級の政治家は、何の役にもたたない」とも指摘している。

だが、このような弱点は府職労だけが有罪であったが府職労・安保闘争を含む全民主勢力の力によつて表面化せずに、内容的に克服され、共産党を含む全民主勢力の力によつて表面化せずに、内容的に克服され、ただろうか？ レーニンもまた著名な「共産主義内の左翼主義小児病」という論文で、「妥協一般を許すこと

BOOK

「守った放送の灯 KBS京都再建への道」

市民と放送を考えるフォーラム編著

かもがわ出版

一九九四年秋、放送免許の更新を前に、イトマン・住銀事件に巻き込まれ、闇の人脈に支配されたKBS京都は社屋から放送機材の一切にまで百四十六億円の根抵当が設定され、倒産・廃局の危機に陥っていた。

これに対し、八〇年に長い分裂を乗り越えて組織統一をなしとげ民放労連にも加わっていたKBS京都放送労組は、未払いボーナス七億円の債権者として従業員による会社更生法申請を選択し「京都から放送の灯を消すな」と闘いにたちあがつた。百八十人余りの組合員は民放労連の仲間はもとより、四十万人署名に象徴される多くの学者・文化人、幅広い市民の支援を受け再建の道を歩みはじめた。

それから13年、KBS京都は数々の危機を乗り越え二〇〇七年十月、ついに更生終了を実現、十一月には労働組合の手で再建達成を祝う「終結の集い」がおこなわれた。

## 日本労働運動に稀有な闘いの記録



本書は、従業員による会社更生法申請から再建達成まで、日本の労働運動に稀有な闘いを現場でになってきた組合役員らがまとめたドキュメントである。

京都経済界の支援を求め再建出資へ京セラ稻盛氏との息詰まる折衝、社屋売却・早期更生終結といふ会社の方針をめぐる攻防などの創立60周年を迎える。これを記念して8月20日から23日まで、府立文化芸術会館で「ウイッシュユーリスト」じいさんと幽霊少女の願いごと」を上演する。35年前に合同公演して以来の企画で、役者と人形ががっぷり四つに組んだ芝居。

4月には両劇団を支えてきた藤沢薰（劇団京芸）谷ひろし（人形劇団京芸）両代表が上京区のシアターワークで記念対談を行ない60年をふりかえった。

□ ■ 8月4日から京都の戦争展 第29回平和のための京都の戦争展（同実行委員会主催）は8月4日（火）から9日（日）まで立命館大学国際平和ミュージアム・中野記念ホールを中心に開かれる。「15年戦争と京都」「核兵器廃絶へ世界に発信」「現代の戦争の実相」などの展示や文化企画、子ども向け企画など

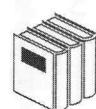
が用意されている。9時30分～16時30分、入場無料。

情報

## スクランブル



編  
集  
後  
記



▼志摩肇さんからの「うたごえよ高らかに」は京都のうたごえ運動60年にあたっての貴重な証言。「書けるときに書いておかないと」とあと数回予定されています。前号に寄せられた「憲法」のエッセイとともに掲載しました。

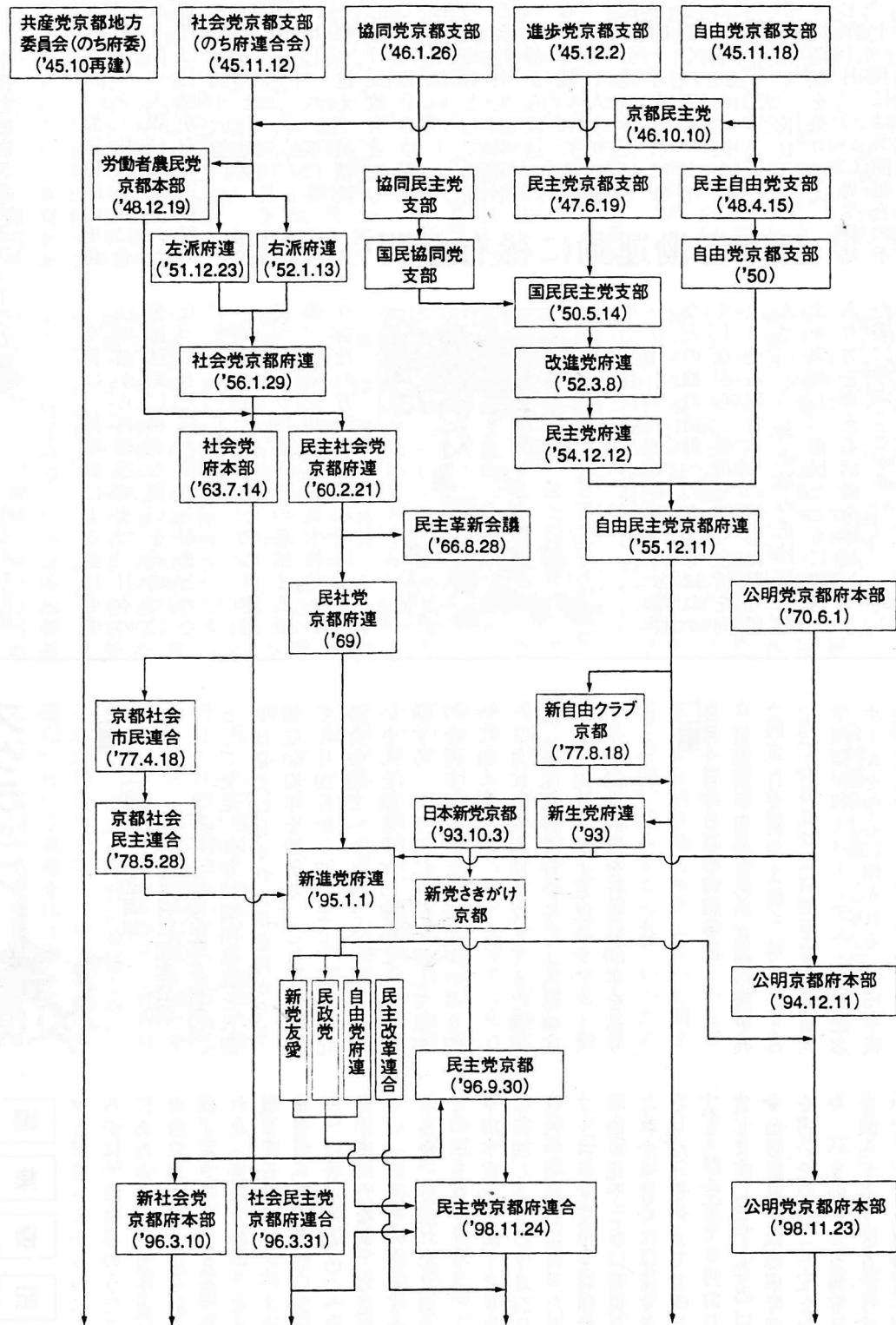
▼資料「戦後京都における政黨の変遷」は貴重なもの。「ああこんな政党があつたなあ」と思い出してください。総選挙のあとまた再編でどうなるか、分かれたり引っ付いたりこの図も変わりそう。

▼山本宣治誕生120年記念講演会に参加しようと5月24日午後、同志社大学明徳館に行つたところ「インフルエンザで全学封鎖中」。「会場は宇治・花やしきに変更されました」。これから行くには遠すぎるので諦めました。その会で上映されたDVD「やません」を8月27日の例会で鑑賞します。見逃した人はぜひ参加を。

▼前号に私が救急車で運ばれたことを書いたためご心配をおかけしました。いまのところ異常はなく、酒量を減らすよう医者から言われて努力中です。でも「燎原」編集を手伝つてくださる人が現れるとありがたいのですが」。

（湯浅）

## 【資料】戦後京都における政党の変遷(発足年月日)



「京都労働運動史（1996～2005）」より

# 京阪電鉄レッド・ページの真相



松村 茂

『記録集レッド・ページ——米軍占領下一〇〇万人の首切り』（一九六五年一〇月一日、不当解雇反対同盟全国協議会編集発行）というB六判一三二頁の本に松村茂さん（故人、元京都民報社社長）が「私鉄関西の一五年」と題して次のような手記を書いている。以下、その全文。

## きわめて計画的に

私鉄総連関係のレッド・ページは（当時組合員一三万五千人）三七・五二五人が昭和二五年一〇月二日から一月五日までの間に追放された。私鉄の場合のレッド・ページは、国鉄や電産と同じように、輸送機関であるので、きわめて計画的に、無慈悲に残虐な方法で、五二五人が職場を追放された。

わたしは会社の指導員でもあつた。赤地に白い文字で「指導員」と書かれた腕章を右腕につけて、たくさん改札係の任命試験も全線で第一位だった。また労働組合では青年部副部長だった。会社からも、労働組合からも、信望という点では認められていた。ところが、わたしが、一〇月二三日、まったく突然に、レッド・ページ（解雇）されたという社達が、社内の大阪天満橋駅や、京都三条駅に掲示されたので、組合員はアッと驚いた。はじめは何かの間違いではないかと、たずねる組合員もあつた。真相が職場に伝わると、無茶苦茶や」という非難の声が起つた。その真相はこうだった。

私はいつもの毎日とかわらず、午後出勤で、京都深草列車区の内勤に、出勤の印をおして乗務の準備をした。運転士であつたが、車掌の人員が少なかつたので、この日は臨時に車掌をすることになつた。昭和二五年一〇月二三日付の発売

さんの車掌見習生を指導してきた。改札係の任命試験も全線で第一位だった。また労働組合では青年部副部長だった。会社からも、労働組合からも、信望という点では認められていた。ところが、わたしが、一〇月二三日、まったく突然に、レッド・ページ（解雇）されたという社達が、社内の大阪天満橋駅や、京都三条駅に掲示されたので、組合員はアッと驚いた。はじめは何かの間違いではないかと、たずねる組合員もあつた。真相が職場に伝わると、無茶苦茶や」という非難の声が起つた。その真相はこうだった。

私はいつもの毎日とかわらず、午後出勤で、京都深草列車区の内勤に、出勤の印をおして乗務の準備をした。運転士であつたが、車掌の人員が少なかつたので、この日は臨時に車掌をすることになつた。昭和二五年一〇月二三日付の発売

## 乗車券予備を車掌カバンに入れて、交代する列車をまつた。

### 「一切立ち入り禁止、理由は言えない」

私はレッド・ページ以後、労働組合運動では、多くの困難なきびしい状態を経験せざるを得なくなつた。「たたかいいの十年」史はそうした面から、きびしい反省をせざるを得なかつたと書いている。一九五八年六月、関西地連の京阪電鉄労働組合が、第二回定期大会で、その上に立つて万場一致、レッド・ページ

のいなかに近い駅におろされ、わたしの代わりにその列車に乗せ、わたしは、列車区長・助役・見知らぬ男たちに連行され、枚方駅という大阪第一回定期大会にも支援を決議した。そのあと、八月二二日から長野県上諏訪でひらかれた、私鉄総連第十二回全国大会にわたしも参加し、私鉄全国不当解雇反対同盟を代表して、大会であいさつをして支援を訴えた。この大会でも、多数決で支援が決議された。これは、日本の労働組合運動にも、一定の大きい影響を与えた。当時の日経連タイムスや、朝日新聞がそのことを中心に報道している。



「記録集 レッドページ」の表紙

## 忘れ得ぬ人

浜田陽子・  
引野収のこと

樹靈碑をここに建てた  
地元の皆さん

松村茂さんの3周忌の集いが伏見

区・そうぞう館であつた時に村上敏明さんに会つた。村上さんは長年にはわたつて社会教育、図書館活動で尽力されて来ており、また、「伏見人形・土人形」の収集研究者である。そうぞう館の集いの日に、私が「山本治子さんの出版を祝う会」で撮つ

桃山城の樹靈碑

桃山の運動公園の中にある城、秀吉が建てたお城は金箔がはられ朝鮮からの使者を迎えるはずであったが大地震のため崩れた。明治天皇陵はその上に造られたが、権力者の常套手法である。さて今のお城は近鉄株

### 桃山城入口にある樹靈碑

小田切明徳

んで樹靈碑のことを知つたわけです。



### 桃山城入口にある樹靈碑

靈碑がある。そこに「永遠と  
おもえるながき時のなか櫻た  
てり黄なる彩雲の果て」の句  
が彫られている。作者は引野  
収である。脇にある歌碑の説  
明には浜田陽子の和歌、「峠路  
はやすらぎに似て風吹けり  
石も木草もなべてかがやく」  
が載っている。

式会社の作ったキヤツスルランドであるが、運動公園の中に組み込まれ

(21) 伏見・夢と幸せはこぶ会・劇団京芸(21) 伏見・夢と幸せはこぶ会・劇団京芸) を上演した。

引野は神戸市に1918年生まれ、「短歌月刊」に入会し、浜田と結婚後、伏見桃山に住む。そして2人は「短歌世代」を創刊してこれ中心にして浜田陽子と創作活動を展開した。「マダムとポエム」、「終宴」等の歌集を

る「潮音」・「鞴火」らの主催（私も司会の一員であつた）、その祝賀会に浜田陽子さんが出席していた。松村茂さん、西村清三さん、秋田清二郎さんらと並んでいた。ことし、山宣の没90年・生誕120年記念の事業を実施しているが、娘の治子さんの命日も3月5日である。

40年間も闘病生活の中で、桃山の風土と反戦・平和の歌を作り続けた。彼らの歌は「引野収全歌集」、「濱田陽子全歌集」(いずれも洛西書院、1999年発行)にまとめられている。

山本治子の歌集「清明の季」

る「潮音」・「輔火」らの主催（私も）司会の一員であつた、その祝賀会に浜田陽子さんが出席していた。松村茂さん、西村清三さん、秋田清二郎さんらと並んでいた。ことし、山宣の没90年・生誕120年記念の事業を実施しているが、娘の治子さんの命日も3月5日である。

治子さんの歌集「清明の季」についての再版の希望がでており、篝火社から増補版を出して頂くことができた（購入希望の方には1冊1500円でお分けしております、連絡先：6121-8026 京都市伏見区桃山町伊賀6-15・小田切明徳）（本会世話人）

された。こうした2人の人柄と和歌をさらに多くの人々に知らしめよう

# 書かれていた恐ろしさ 大切さ

志摩 肇  
(行政書士)

## そして空しさ——いま憲法を考える——

先日、民間人たゞ一人の元A級戦争犯罪人、広田弘毅に関するNHKドキュメンタル放映を見た。

その中でときの総理大臣でも軍部の独走を止められず、その原因は「統帥権」にあると説明されていた。戦中人間の一人として終戦以前の生活を知る者、また仮にも法律を学び法律事務屋の端に連がる者の一人として、「統帥権」に疑問を感じ旧日本帝国憲法を開いてみたら、そこには次のように書かれていた。

◇ 第十一条 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

「統帥」とは軍隊を率い軍務を行なせることで、明治天皇が軍人に強制した軍人勅諭に「我が軍隊は代々天皇の統率し給うところ」と述べた。この文句が今でも暗唱出来るくらい、旧制中学教練座学でビンタと共に叩き込まれ、その忌々しさをあらためて思う。その法的根拠が旧憲法のタツタ十文字だった。

これがあの戦争に軍部の独走を止められず、中国を始め東南アジア各

国に申証立たぬ被害を与える結果を生んだ法的根拠だった。



戦前の日本は總て天皇の國で、總理大臣は天皇が指名し大臣と共に天皇政治を支える。文面は補弼：が、一方軍部の行動は統帥権による天皇の命令という二面政治とされている。

実際は、軍部中の頭の良い連中や御用学者がこの仕組みを利用し、政府の統制に軍部が不服従を貫くため考え出したものと思う。

悪いことに前記の軍人勅諭に「上官の命令は朕が命令と心得よ」とあり、下級軍人は命令されれば従う以外無かつたことから、そのタツタ十字の恐ろしさを更めて思う。

今一つ別の側面として考えたいのは、ドイツのワイメール憲法とナチスの関係である。

第一次大戦末期のドイツ革命か

ら、大戦後成立したドイツ共和国は

ワイメール憲法を制定した。

それは「男女普通選挙権・国民投

票による大統領選出・労働者保護による社会保障国家」等、当時としては「最も民主的」な内容だった。



しかし天文学的な賠償金負担・国内の超インフレ・世界不況の影響で一方軍部の行動は統帥権による天皇の命令という二面政治とされている。

この中でナチスが総選挙で第一党を獲得、ヒトラーが政権掌握するとワ

イマール憲法は停止、一気に第二次大戦への道を進んだ。

更に現在保守反動勢力が企んでい

る憲法改悪は、つまるところ憲法第

九条で、第一項の戦争放棄規定に基

づき第二項で「前項の目的を達する

ため、陸海空軍その他の戦力は、こ

れを保持しない。国の交戦権は、こ

れを認めない」の削除または改変を狙っている。

この第二項は、字数にして四三で

あるが、この項目が消された後の日

本の姿は、かつての軍国日本の再来

であろう。

◇

人。

（〇九・五）

※筆者自己紹介

一九二九年生（八十歳）京都市・中京区在住。六〇年間「民主商工会」と「うたごえ」運動に参加。現在中京民主商工会常任理事・京都ひまわり合唱団団友・OB・OG・会世話人。

字のために、ワイメール憲法は最も民主的な条文があつたのに、世界は甚大な戦争の災禍を受け、日本もドイツも各国に与えた大きな加害責任と、国民の受けた苦難は計り知れなかつた。

更に我々が現在住み暮らす日本が、ともかくも戦争に巻き込まれず過ごしてきた平和が、憲法第九条第二項の四三字が消えれば起る激変の恐ろしさは、戦中人間だけに想像に難くない。



以上の事柄は、私たちに何を物語るのであろうか？

11 燐 原 第183号（2009年7月15日）

# 来年は結成30周年、新たな飛躍を

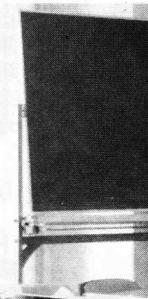
2009年度総会開く

一ノ瀬さんが「夕刊京都」

創刊時語る——記念講演

京都の民主運動史を語る会の200

9年度総会が6月27日午後、京都労働者総合会館（ラボール）会議室で開かれ約20人が参加しました。



つの流れ」について説明、「常にイニシアチブは握り、その枠内で進歩的知識人グループが巧妙に利用された」と言えるかもしれません。そして、50年G H Gのレッド・ページによつて事実上オピニオン・ペ

ーパーの使命を終えたが、「憲法を暮らしの中に生かさねばならない」という主張は同年誕生した蜷川府政のスローガン、さらには現在の護憲派の主張に受け継がれて

ました。  
このあと総会では、岩井忠熊代表世話人のあいさつにつづき、井手会務担当者が会務報告。会員の拡大で財政赤字をなくすことや、来年1月の結成30周年に向け新たな飛躍を目指すことが確認されました。選出された世話を人と会計報告は下記のとおり。

## 会務報告

現在の会員数  
185名

例会（7回～11回）  
(昨年は191名)

08年8月28日 私のレッドページ  
(早見栄子さん)

10月30日 記録映画「テントからの報告」と当時を振り返る(田村能

が創刊された当時の「二

総会に先立ち、一ノ瀬秀文さん（大阪市立大学名誉教授）が「夕刊京都」創刊から4年までと題して講演、1946年5月12日に「夕刊京都」が創刊された当時の「二

講演する一ノ瀬秀文さん

が、「憲法を暮らしの中に生かさねばならない」という主張は同年誕生した蜷川府政のスローガン、さらには現在の護憲派の主張に受け継がれて

いるという見解を紹介し

その他  
(関谷健さん)

稲田達夫・岩井忠熊・奥村和郎・湯浅貞夫所蔵資料目録の作成

馬原郁・湯浅俊彦・井手幸喜

田北亮介・藤井舒之・堀江八郎・

小田切明徳・川合葉子・黒住嘉輝・

代表 岩井忠熊

編集担当 湯浅俊彦

例会担当 小田切明徳

会務担当 井手幸喜

会計監査 蓮佛亨

編集協力 須田稔

史・堀昭三さん  
12月12日 戦後の青年団運動について（西山秀尚さん）  
09年2月27日 山宣暗殺者・黒田保久二を追跡して（本庄豊さん）  
4月24日 教員のレッドページと私

## 民主運動史を語る会例会案内

8月27日（木）午後2時～

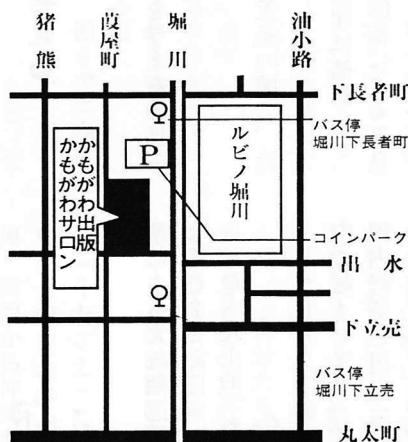
### かもがわサロン

上京区堀川通出水西入  
☎075-415-7902

## DVD「やません —山本宣治の生涯」(45分) 観賞と解説

### 解説 小田切明徳さん(世話人)

宇治山宣会が企画・制作し、5月24日の山宣生誕120年・没後80年記念講演会（花やしき）で上映されたDVDを観賞するとともに『山宣譚』を上梓した小田切明徳さんに解説していただきます。



例会は隔月に開きます。どなたでも参加できます。会員は無料、会員外の方は300円。

2008年度収支一覧表 2008年4月1日～2009年3月31日

収入項目	収入金額	支出項目	支出金額
前期繰越会費	123,565	会誌印刷	529,200
賛助会員・名刺広告	501,000	(176号～181号)	7,980
カンパ・雑収入	62,000	編集費	103,680
	16,400	発送費	10,500
収入合計	702,965	封筒印刷	21,142
合計	702,965	例会	8,899
		事務費	681,401
		支出合計	21,564
		現在高（貯金）	702,965

### 会計監査報告

2009年6月23日

会の会計について関係帳簿類を精査した結果、いずれも正しく処理されていることを認めます。

蓮佛亨印